特定非営利活動法人　フリースペースたまりば（認定NPO法人）
2023年度事業報告書
（2023年4月1日～2024年3月31日）

１．事業の成果

本年度は、この間漸次拡大してきた法人の規模に合わせた適切な運営体制を築くため、法人本部事務所を移転、事務局職員の増員を行い、事務局機能の強化に努めた。同時に、現在の課題を検証し、今後の運営改善に向けて体制づくりに着手した。

本年度は、夢パーク開設20周年を記念して、様々な企画を行なった。例年を開催している夢パまつりを「夢パークおたんじょうび祭り」とし、水・泥遊びに加えステージを設置し大友剛さんのコンサートや夢パークで活動する団体の子どもたちによる発表の場とした。また、『ゆめぱのじかん』の重江監督に夢パークで視察等に使えるショートムービーを作製してもらった。フリースペースえんの企画としては、OB でプロのフォルクローレ演奏家に全国ツアーの一環で夢パークでもコンサートを開催し、とても盛り上がった。これら以外にも、たくさんの企画を市民とともに共催して、改めて夢パークが大事にしている市民協働の場とした。視察・見学・実習などの件数は全国から年間200件をこえ、夢パークや子どもの権利の周知・広報について力を入れた。

フリースペースえんは、新型コロナウィルスの５類感染症移行を受け、4年ぶりに八丈島キャンプを開催することができた。日々の活動も制限なく、さまざまな取り組みを行うことができた。登録者に目を向けると障がいのある子どもや低所得世帯の子どもなど、一層多様な子ども若者が集う場となっている。職員が子どものことについて語り、考える時間を増やすなど、現状に合わせて子どもへの向き合い方も工夫が必要となり、随時対応を行なっている。また、パブリックリソース財団NOBUKO基金の３年間の助成事業「発達障害を持つ不登校の子どもたちへの学校外での多様な学びを支える教育支援事業」が最終年度を迎えた。これまでの研修も振り返りながら、改めて職員が「たまりばの学び」について見つめ直し、その成果をハンドブック「居場所のまなび ―フリースペースたまりばの多様な育ちから」にまとめた。

川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」は、えんくるお助け隊の活動がますます充実したのに加え、新たに助成金を受け「働くを探そうプロジェクト」を実施した。合わせて、多様な地域の活動に参加をし、多くの若者が就労に限らず、さまざまな地域とつながる機会を得ることができた。月・水・金の居場所に加え、火・木の予約制居場所の利用者も増えており、二つの形の居場所が両輪となって事業が進んでいる。

コミュニティスペースえんくるは、より多くの利用者が訪れるようになり、寄せられる困りごとも多種多様となっている。今年度も引き続きパントリー事業を軸に、さまざまな助成事業を活用し、多世代型えんくる食堂、こども☆きっさ、時短・節約料理教室、チャレンジ・ラボ、こうした事業から始まる相談支援事業など多様な場と機会、サポートを提供してきた。さらに今年度より３年間の神奈川県社会福祉協議会と協働モデル事業として「福祉的支援を必要とする子どもとその家族を食を通して地域全体で支えるしくみづくり」を開始、今年度はえんくるの事例分析と、県内で食支援に取り組む団体へのweb調査を実施した。

２．事業内容

居場所（活動拠点）・事業

A) 川崎市子ども夢パーク
B) フリースペースえん　} 指定管理施設　指定管理料（分担金）：55,130,000 円

C) 川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」(川崎市生活保護受給世帯等若者就労自立支援事業)
委託費：　55,500,000 円

D)「よつばの会」(川崎市学習支援居場所づくり事業)　委託費：　7,594,972 円

E)「ふれあい心の友」(川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業)　委託費：　6,013,708 円

F) コミュニティースペースえんくる・フードパントリーたまりば

1.「社会福祉振興助成事業」(WAM 助成)　助成金：　7,000,000 円
2. 厚労省補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」
（全国食支援活動協力会）　助成金：　1,925,000 円
3. かわさき市民公益活動助成金　ステップアップ１００　助成金：　1,000,000 円
7. いきいき市民基金　助成金：　250,000 円
8. 地域福祉活動支援事業協働モデル事業　（神奈川県社会福祉協議会）助成金：　1,280,000 円
9. 神奈川新聞厚生文化事業団補助金　補助金：　50,000 円
9. その他、
神奈川県子ども食堂応援事業協力金　委託費：　60,000 円

G) その他

1.「発達障害を持つ不登校の子どもたちへの学校外での
多様な学びを支える教育支援事業」(NOBUKO 基金)　助成金：　2 ,500,000 円
2. 令和 3 年度 NHK 歳末たすけあい配分金（神奈川県共同募金会）　寄付金：　975,000 円
3. かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク［川崎事務局］　委託費：　860,378 円
4. 子どもの居場所づくり推進委託事業（神奈川県）　委託費：　360,150 円
5. 神奈川県生活困窮者支援団体応援協力金（3 拠点分）　委託費：　120,000 円
6. ひきこもり等支援団体支援事業協力金　委託費：　40,000 円

(1)　誰もが安心して過ごせる居場所の開設と運営

＜ A) 川崎市子ども夢パークの管理・運営＞

・(公財) 川崎市生涯学習財団と「川崎市子ども夢パーク共同運営事業体」を結成し、指定管理者として川崎市子ども夢パーク（以下　夢パーク）の管理・運営業務を行ない、夢パーク所長を友兼大輔に交代し、副所長を千葉志門が務めた。生涯学習財団からの副所長とあわせ、計二名体制でより安全な施設管理、運営体制を実現した。

夢パークは、「川崎市子どもの権利に関する条例」の具現化を図ることを目的として川崎市によって設置され、子どもの活動拠点、プレーパーク、不登校支援、乳幼児・子育て支援、多文化共生、世代間交流等、多機能が備わった子どもたちの総合的な居場所である。これらの実現を目指して、以下の 3 つを事業の柱として、管理・運営を行なった。

＜夢パークの特徴＞

○「プレーパーク」…土や水、火や木材などの自然の素材や道具や工具を使い、子どもたちの遊び心によって自由につくりかえられる遊び場

○「フリースペースえん」…主に学校の中に居場所を見出せない子どもや若者たちが、学校外で多様に育ち・学ぶ場

○「子どもの活動拠点」…子どもが自由に安心して集い、自主的及び自発的に活動する拠点

＜子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所＞

夢パークでは「子どもが自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける居場所」であることを目指して整備してきた。子どものいのちを真ん中におき、一人ひとりの自己肯定感を育む環境づくりに力を入れている。子どもが安心して、ありのままの自分でいられることを尊重し、自分の中から湧き出る「やってみたい」を大切にしたいと考えている。そして、できるだけ禁止事項をつくらず、子どもの発想で自由に遊び、自分の力の限界に挑戦し、それができたときの達成感を通して自信を育むとともに、安心して失敗できる環境づくりに力を注いだ。ここでは子どもの「参加」を大切にし、運営や遊具の製作・設置・撤去、イベントの開催などに子どもの意見を聴き、子どもたちが自主的・自発的に活動する拠点づくりをめざした。

○ 使いながらつくり続けていく場
○ 子どもの自由な遊び、活動がどんどんふくらむ場
○ 子どもが自由で安心して居られる場
○ 学校以外での育ち、学ぶ場
○ 川崎市の子どもネットワークの拠点となる場
○ 子どもたちが自分たちで動かしていく場

・開設日時（夢パーク）
2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
通年（毎月第 3 火曜日の施設点検日、臨時施設点検日、年末年始を除く）　9:00～21:00
・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1　川崎市子ども夢パーク
・総利用者数：72,052 人

＜ B）不登校児童・生徒の居場所「フリースペースえん」の運営＞

川崎市子ども夢パーク内において、学校や家庭・地域の中に居場所を見出せない子どもや若者が安心して過ごせる居場所づくりを行なった。今年度の特徴としては、小学生の登録者が急増していることがあげられる。

○ 自分で決めるプログラム
決められたカリキュラムはなく、子どもたち一人ひとりが、自分でその日をどのように過ごすかプログラムづくりを決定し一日の活動を行なった。　“この指とまれ”方式で、自主企画をたて、仲間を集めて一緒に活動した。

○ 昼食づくり
フードバンクやえんめし自主サークル「あたたかいごはんを食べる会」と連携し、「自分たちで一緒に作って食べる」を大切に、子どもや若者を中心にスタッフやボランティアがサポートしながら、毎日メニューを決め、買い物・野菜の収穫・調理・配膳・片付けなど、毎日 30～40 人分の昼食づくりを行なった。（1 食 250 円）

・開設日時（フリースペースえん）
2023 年 4 月 6 日～2024 年 3 月 15 日
月曜日～金曜日 10：30～18：00　祝日は休み（ただし、火曜日は 10：30～14：00）
開設日：194 日
特別活動日：22 日（自然野外体験、合宿、イベントなど ＜別紙参照＞）
・場所：神奈川県川崎市高津区下作延 5-30-1　川崎市子ども夢パーク内
・対象者：登録制

登録者数（2024年3月31日現在）

	男	女	計
小学生	30	21	51
中学生	28	17	45
高校生年齢	12	6	18
19才以上	19	17	36
計	89	61	150

＜ C）川崎若者就労・生活自立支援センター「ブリュッケ」（以下ブリュッケ）の開設・運営＞

川崎市内の生活保護世帯、及び生活困窮世帯の若者たち（15～39歳）に対して、居場所づくりと就労自立支援を行った。2023年度は、就労自立支援の新たな取り組みとして「はたらくを探そうプロジェクト」を開始した。法人で新規に神奈川新聞厚生文化事業の助成金を受け、若者たちの就労体験の場を地域へ広げる取り組みをスタートさせている。併せて、町内会開催の夏祭りやフリーマーケットへの参加、近隣幼稚園や放課後デイサービスでのボランティア活動など、就労体験に限らず、若者たちがボランティア活動などを通して地域とつながる動きも活発化した。居場所では、予約制居場所の利用数が増加した。通常居場所を利用する8割の中には、予約制居場所から通常居場所に移行した若者、通常居場所と合わせて予約制居場所を利用している若者が含まれている。加えて、学習支援の会や女子会なども予約制居場所で開催しているため、若者の半数が予約制居場所を利用している状況となっている。多くの若者に開かれた通常居場所とターゲットを限定しながらつながっている予約制居場所の両輪で居場所が展開している。

・開設日時

2023年4月1日～2024年3月31日

月曜日～金曜日 9：30～18：00

開所居場所：月・水・金　10：30～17：00　予約制居場所：火・木　10：30～17：00（一人2時間程度）

【開設時間例】

月・水・金：「みんなdeワーク」のんびりヨガ、各種グループワーク

「ひとりdeワーク」PC個ワーク、珈琲工房

昼食づくり、フリータイム、ミーティング

共食タイム（「おいしい・うれしい・たのしい」をみんなで！）

火・木：予約制居場所、学ぶぞ！（学習支援の会）、女子会

福祉事務所、自宅へのアウトリーチ（訪問居場所）・ご家族相談など

CWとのケース打合せ、行政関係機関とのケースカンファレンス、連携・調整会議

・場所：神奈川県川崎市中原区内

・対象者：登録制

●年間登録者数　84名（2024.3.31現在）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	合　計
男性	5	12	15	6	6	44

女性	11	11	10	7	1	40
合計	16	23	25	13	7	84

●支援類型

支援類型別相談支援者内訳（重複あり）	人数
相談支援（本人）	43
相談支援（家族）	5
居場所支援（アウトリーチ）	12
居場所支援（予約制）	40
居場所支援（通常）	67
就労支援	34
定着支援	8
学習支援	15
生活支援	23
関係機関連携	63

＜ D)「よつばの会」（川崎市学習支援居場所づくり事業）の開催＞

高津区を中心とした川崎市内の生活保護世帯、及び一人親世帯の小学生（小学校3年生～6年生対象）・中学生・高校生に対して、学習支援・居場所づくりを行なった。個別の理解度や苦手分野に合わせた個別学習を中心に行ない、学習以外にもサポーターや来ているメンバー同士が交流し関係性を築くことでその後の学習がスムーズにつながるよう心掛けた。高校入試直前には、受験生の希望者に対し、集中講座・無料の模擬試験を実施した。高校進学を希望したメンバーは全員高校進学を果たした。また、高校進学後も、いつでも相談や自習に来られるように受け入れ態勢を整えた。また、大学進学等進路についてなど、様々な不安を抱えたメンバーや親の相談が多数寄せられ、丁寧に対応した。

・開設日時

2023年4月1日～2024年3月31日

週2日（月曜日・木曜日）小学生の部　16：30～17：30

中高生の部　18：30～20：30　祝日は休み

開催回数：92回（高校入試前の集中講座を含む）

・開設場所：川崎市子ども夢パーク内「ミーティングルーム、多目的ホール」

・対象者：登録制

登録者（2024.3.31現在）

	男		女		計
	生活保護	一人親	生活保護	一人親	
小3	1	0	0	0	1
小4	0	0	0	0	0
小5	1	0	0	1	2
小6	0	0	0	0	0
中1	1	0	0	0	1

中2	0	1	2	0	3
中3	1	1	2	0	4
計	4	2	4	1	11

＜ E)「ふれあい心の友」（川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業）の実施＞

川崎市内の児童相談所と関わりのある不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒が、主に大学生が登録している「ふれあい心の友」と児童相談所内で交流し、自主性や社会性の伸長を図ることを目的としている。この事業のうち、フリースペースたまりばは、「ふれあい心の友」登録者と対象となる児童・生徒が一対一で学習をしたり話をしたりする個別活動支援のうち、「ふれあい心の友」の募集・研修・派遣を担当した。また、児童相談所に通ってくる複数名の児童・生徒が一緒にゲームをしたり料理をしたりする集団活動支援のうち、活動内容の企画立案・準備・運営を担当した。

・実施日時

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

実施回数：個別活動支援　148 回

集団活動支援　28 回

研修　8 回

・場所：川崎市こども家庭センター、川崎市中部児童相談所、川崎市北部児童相談所

・対象者：川崎市児童相談所と関わりのある 18 歳未満の児童・生徒

2023 年度利用者数（延べ人数）

	こども家庭センター	中部児童相談所	北部児童相談所	計
個別活動支援	4	43	101	148
集団活動支援	25	46	26	97

＜ F）コミュニティースペースえんくる・たまりばフードパントリーの運営＞

2023 年、コミュニティスペースえんくるは、「食」でつながる地域の居場所、地域づくり・まちづくりの拠点として、各種事業を実施しながら地域のネットワークを作り、活動してきた。事業実施にあたっては、フリースペースえんやブリュッケの若者が参加し、就労をはじめさまざまな体験の場ともなってきた。実施した事業は下記のとおりである。

実施事業		活用した助成・補助等
地域づくり/まちづくりの拠点としてのコミュニティスペース運営		福祉医療機構 WAM 助成事業
たまりばフードパントリー	日常の運営	福祉医療機構 WAM 助成事業
	ひとり親世帯の食料支援	こども家庭庁補助事業「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」（全国食支援活動協力会を通じた補助）
えんくる食堂（多世代型地域食堂）		かわさき市民公益活動助成事業
こども☆きっさ		かわさき市民公益活動助成事業
相談支援事業	日常的な相談支援	福祉医療機構 WAM 助成事業

	相談カフェ（月 1-2 回）	かながわ生き活き市民基金福祉たすけあい基金助成事業
時短・節約料理教室		かわさき市民公益活動助成事業
チャレンジ・ラボ		かわさき市民公益活動助成事業
えんくる CAFÉ		自主事業
支え合いの地域づくり		福祉医療機構 WAM 助成事業
調査事業「福祉的課題を抱える子どもへの食支援の可能性」		神奈川県社会福祉協議会地域福祉活動支援事業協働モデル事業

・実施日時

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日　年間開所日 195 日

週 4 日（月・水・金・土曜日）10：30～18：00　原則祝日、年末年始休み

・場所：川崎市多摩区宿河原 6-26-24

・各事業実施概要と年間実績　＜詳細は別紙１参照＞

①　たまりばフードパントリー

福祉事務所（生活保護課）や社会福祉協議会、地域のフードドライブを実施する団体など、さまざまな団体・機関からの紹介でパントリー利用者が増加、ひとり親世帯の子どもたちに加え、中高年単身者の利用も増加している。食材配布に当たっては、フードバンクや連携団体、市民からの寄贈・寄付に加え、昨年度に引き続きひとり親世帯向けには、全国食支援活動協力会を通じてこども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等提供事業」より食材購入の補助を受けた。

〇実施概要　えんくる開所中に自由に来所してもらい、随時対応。

〇年間実績

・利用者数（延べ人数）　2,072 人

・定期利用登録者（実人数）　52 人

・食料配布：配布数　25482 個、配布量 6,330 kg

②　えんくる食堂

第２土曜日はカレーランチとして予約不要、イートインのみ、第３・第４土曜日夜のえんくる食堂は毎回限定 50 食の予約制としているが、申し込み開始直後に予約枠が埋まる状況で、２回の夕食の食堂はどちらか１日の選択してもらうなど、できるだけ多くの家庭が利用できるよう工夫している。

〇実施概要

・開催日　月 3 回　第２土曜日　12：00～14：00（カレーランチ）

第３・第４土曜日　17：00～　18：30～

・料金：子ども　無料、大人 100 円

〇年間実績

・開催回数　36 回

・利用者数（延べ人数）　子ども 902 人、大人 730 人（合計 1,632 人）

③　こども☆きっさ

子どもはジュース一杯、お菓子一個無料で立ち寄れる放課後の居場所である。近隣の小学生を中心に、口コミで利用者が広がっている。未就学児を連れた親も利用している。

〇実施概要

・開催日：月・水・金　14:30-17:30（年間 141 回開催）

〇年間実績
・利用カード登録者（実人数）：171 人
・年間利用者（延べ人数）：1,265 人

④　相談事業
フードパントリーやえんくる食堂などでの日常的なやりとりを通じて SOS をキャッチし、相談援助につなげている。立ち話等食支援利用時や公式 LINE でサポートを行う日常相談、個別相談・訪問・動向などを行う専門相談、月に 1 回広く広報して呼びかける相談カフェの３つの形で相談を実施している。
〇実施概要
・日常相談：えんくる開所時、公式 LINE での連絡等に応じて随時対応。
・専門相談：日常相談から見えた相談に応じて随時対応。
・相談カフェ：月に 1 回平日昼の時間帯（11:00-13:00）。個別相談は一人１時間、グループ相談はひと枠２時間。
〇年間実績
・日常相談：年間開所日を通じて、1 日 1,2 件の相談、公式 LINE を通じたサポート。
・専門相談：相談・訪問・同行合わせ延べ 30 人（実人数は 12 人）に対応。
・相談カフェ：個別相談を年間 12 回、グループ相談（不登校）5 回。実人数 11 人、延べ 22 人。

⑤　時短・節約料理教室
ひとり親世帯の親子を対象に、簡単で、安価に作れる料理を学ぶ料理教室。子どもだけでも参加をしている。実施にあたっては、クックパッド（株）コーポレートブランディング部の方々に講師としてご協力いただいている。
〇実施概要
・開催日：土曜日の午後開催（年間 5 回開催）
〇年間実績
・参加者数（延べ人数）：50 人

⑥　チャレンジ・ラボ
子ども若者、その家族が多様な生き方を知る機会として実施した。多様な講師から技術だけでなく人生の歩みを聴く機会となった。
〇実施概要
・対象者：若者やその家族（年間 4 回）、子ども（夏休みに 2 回）
〇年間実績
・開催回数：6 回
・参加者数（延べ人数）：47 人

⑦　支え合いの地域づくり
１）多様な人が寄贈者・利用者となる無料のフリーマーケットの開催
　年間 3 回開催、76 名が利用者として参加。
２）地域ネットワークづくり
昨年度から引き続き、かわさきこども食堂ネットワーク、かわさき生活クラブ生協、神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会からのメンバーが集まり、定期会合を重ねた。年度半ばには、独立した「かわさき暮らしやすい地域をつくる会」を立ち上げることとし、場所をえんくるから地域に移し、地域行事での周知、地域づくりワークショップなどを開催した。運営に当たっては、え

んくるだけでなく、ブリュッケのスタッフも参加し、暮らしと仕事について考えていった。
・地域づくり会合:定例会年間6回延べ41名参加
・地域づくりワークショップ： 2月18日、かわさき市民活動センターにて開催、24名参加

⑧　調査事業「福祉的課題を抱える子どもへの食支援の可能性」
えんくるの行う事業を今後展開・継続していく可能性の模索のため、神奈川県社会福祉協議会と協働で調査事業を行った（３年間の継続事業の初年度)。本年は、調査検討委員会にて、えんくるの利用者の事例分析（結果非公表)、神奈川県内のこども食堂等食支援を行う団体・個人を対象にウェブ調査を行い、報告会の開催、報告書の作成を行った。調査を進めに当たっては、調査検討委員会を設置し、調査の設計、データの解釈、考察などを行った。また、県社協の関心の出発点がヤングケアラーであり、えんくるの事業でも多く出会う課題であることから、ヤングケアラーについては特に集中的な議論を行った。

⑵不登校・引きこもりなどで悩む本人や家族等の相談・援助活動

①来所相談
・内容：不登校、ひきこもり、非行、いじめ、生活上の問題等で悩む本人や家族等の電話相談、事前予約による来所相談を行なった。また「ブリュッケ」では、市内福祉事務所ＣＷとの連携を重視し、複合的な課題を持つ家族への対応も含めたＣＷの相談やスーパーバイズなど、「ＣＷへの支援」も積極的に行なった。（無料）
・相談受付時間：（えん）原則　月曜日～金曜日　10：30～18：00　（祝日は休み）
（ブリュッケ）原則　月曜日～金曜日　10：30～17：00　（祝日は休み）
・相談場所：フリースペースえん、ブリュッケ（アウトリーチ及び来所面接は予約制）　他

②派遣・アウトリーチ相談
・内容：「ふれあい心の友」事業では、ふれあい心の友に登録している学生を児童相談所内に派遣し、不登校・ひきこもり傾向にある児童・生徒の相談・援助活動を行なった。また「ブリュッケ」では、福祉事務所までなら来所できる若者に対し、福祉事務所内等でアウトリーチ相談を行なった。その他、個人宅への訪問や福祉事務所への同行支援なども行なった。
・相談時間：児童相談所や福祉事務所と調整
・相談場所：児童相談所（登録制)、福祉事務所（登録制)、他

③本人や保護者の相談
〇保護者とスタッフの語り合う会
・内容：保護者との関わりを大事にするために、また保護者同士がつながってお互いに話ができる様に、予定確認の他、その時々の保護者の困りごとや子どもの様子などを話しあう保護者会を開催した。予定の確認の部分はハイブリッドで開催した。
・日時：毎偶数月
・場所：フリースペースえん・夢パーク内多目的ホール
・対象者：フリースペースえんに登録している子どもの保護者

〇親の会「たまりば」
・内容：今年度より、主としてえんの説明会申し込みに入ることができなかった不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者を対象にそれぞれの抱える悩みを語り合い、「不登校のとらえ方」「子ども

の受けとめ方」などを手に入れる会を開催した。
・日時：隔月（土曜・午前）（原則）
・場所：ブリュッケ
・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

〇不登校グループ別相談会
・内容：不登校・障害など同じ悩みを抱える保護者同士が出会い、悩みを分かち合い共感しあうことで孤立をさけ、お互いを支え合えるような繋がりを生みだすことを目指し、相談担当スタッフ５名程度の参加のもと、隔月でグループ相談会を開催した。
・日時：毎奇数月（原則）
・場所：夢パーク内多目的ホール
・対象者：不登校・ひきこもり傾向の子どもや若者をもつ保護者

(3) フリースペースの利用者による自主企画・活動の支援

＜ A) 川崎市子ども夢パーク＞

① プレーパーク

子どもの「やってみたい」という気持ちを大切にし、遊びを制限するような禁止事項をできるかぎりつくらず、子どもが考え、自分で決めて、実行するプロセスを大事にした。自分の力の限界に挑戦することを通じ、「やったー」「できた」と達成感を手に入れると同時に、安心して失敗できる環境づくりに努めた。自由な発想で自由に遊べる環境を大切にした。

②３大イベント（夢パまつり、こどもゆめ横丁、新春イベント）

今年度は、夢パーク開設 20 周年なので、夢パまつりを「夢パおたんじょうびまつり」とし、オープン日の 7 月 23 日に開催した。例年の水と泥の祭典に加え、ステージを設営し記念コンサートや子どもたちの演奏やダンスなどの披露の場とした。また、市民ボランティアを中心に 20 周年記念展示も行ない、来場者に夢パークの歴史を周知する機会にすることができた。

こどもゆめ横丁では、年度始め（4 月）から『ＹＴＫ（横丁たのしくしようかい)』メンバーの募集、及び子どもたちと話し合いを重ね、子どもたちが「やってみたい」を表現できる場となった。今年度は過去最多の 49 店舗、約 160 人の子どもたちが出店をした。開催後の横丁会議で横丁税の使い方を話し合い、ジャングルジムアスレチックと本の購入となった。

初夢！新春イベントは、町会の方々や学生等のボランティアにもご協力いただき、もちつき、豚汁、どんど焼き、昔遊びを行った。

② ライブイベント

スタジオ登録者と月に２回『サタデーナイトスタジオ（ＳＮＳ)』を開催した。そこで若者たちが主体となって話し合い、OB の手を借りながらもライブイベント「KUJIROCK」を３回開催することができた。

＜ B) フリースペースえん＞

① ミーティング

安心して過ごせる居場所を自分たちの力で整えていくために、誰もが言いたいことを言える環境づくりに力を注いだ。

・ミドルミーティング（毎週１回 30 分）

②自然体験合宿

〇八丈島キャンプ（5 泊 6 日）

場所：八丈島底土キャンプ場　期間　2023 年 7 月 30 日（日）～8 月 4 日（金）　参加者：43 名

海水浴、牧場見学、山登り、野外炊飯など一日の過ごし方を自分で決め、その日を過ごす。また、参加者ミーティングの開催、必要な共同装備の準備・運搬・片付け、テント干しなども子どもたちとともに行なった。

・参加者ミーティング、荷物だし　　7 月 10 日（月）
・テントチェック　　7 月 12 日（月）
・テント干し、片付け　　8 月 5 日（土）

〇木島平スキー合宿（2 泊 3 日）

場所：長野県木島平スキー場　期間：2024 年 1 月 28 日（日）～1 月 30 日（火）　参加者：47 名

一日のプログラムはスキー、スノーボード、そり・雪遊びなどから自分のやりたいことを選び、その日一日の過ごし方を決めた。滑りの得意な若者や OB が、初心者にスキーやスノーボードをする上での心構えや道具の使い方（板の履き方、板をつけての歩き方、転んだときの起き上がり方等）から基本的な滑り方を教えてくれた。それにより異世代間の交流の機会ともなった。

・参加者ミーティング　　1 月 5 日（金）

③たまりばフェスティバル実行委員会「プロジェクト X」

講座や自主企画など一年間を通して行なってきた活動の発表の場として、フェスティバルを開催するために、子どもたちが「プロジェクト X（フェスティバル実行委員会）」を立ち上げ、準備を行なう。そこが中心となって仲間を集め、広報、プログラム・パンフづくり、その他の企画・運営を行なう。

たまりばフェスティバル 2023

「みんなでわっしょい　たまりばフェスティバル 2023　39（サンキュー！）」

日時　　2024 年 3 月 9 日（土）
会場　　川崎市男女共同参画センター「すくらむ 21」
内容　　歌、ダンス、創作劇、楽器演奏、ビデオ上映、作品展示等
参加者　350 名

④自主企画「この指とまれ」　（講座・自然観察・野外体験・イベント等）

内容：講座や企画は子どもたちが「こんなことやりたい！」という思いをミーティング等で呼びかけし、仲間を募って実現していった。　＜詳細は別紙２参照＞

〇連続講座　　14 講座

月 1 回程度、ものづくりや民族音楽（南米・アフリカ）やダンス、演劇、歌、アート、藍染めなどの表現講座、お菓子づくりやイタリアンパスタ講座などを開催した。

〇単発企画　　20 回

ミーティングなどで子どもたちが提案し、主体的な話し合いによって決定した自主企画や各種イベント等に参加した。

〇その他の企画　8 種

⑤個別学習支援および進路相談

・内容：さまざまな発達段階にある児童・生徒に対する個別またはグループでの学習支援および進路相談を行なった。新しくできた多目的ホールなどを使って、個別に学習する子どもたちが増える傾向にある。

また、慶応大学ボランティアサークル「ライチウス会」との連携によってオンライン個別学習支援を行なった。

・日時：随時

・場所：フリースペースえん、川崎市子ども夢パーク内「多目的ホール」

⑥オンライン（えんらいん）の活用

えんらいん（えんからのオンライン配信）を開設し、運用することで、子どもたちが在宅でもミーティングや講座に参加できるように工夫した。

＜ C) ブリュッケ＞

① 居場所支援

〇共食タイム

食事提供数は 2022 年度以降、増加し続けている。昼夜逆転の傾向にある若者たちが多い中、共食タイム開始時間までに来所する若者の人数も増加した。年々、食べる人、作る人が増えている中、法人本部が同じ建物に入ったこともあり、事務局スタッフも昼食を若者たちともにするようになった。共食タイムを通して外部とつながる機会のひとつとなっている。

〇グループワーク（開所日の居場所）

若者とともにブリュッケの活動について考える機会の多い１年となった。月１回の井戸端会議で翌月のプログラム内容を話し合い、若者たちの希望をもとに活動内容を決めていく。特に外出プログラムでは、若者たち自身で場所や行き方、予算などを調べて企画する場面が増えていた。

〇予約制居場所

開所日以外の火曜日と木曜日を予約制居場所として開所。個別対応の居場所支援を行った。今年度より、学習支援の会や女子会なども開催し、若者たちのニーズに合わせた場の提供を行っている。学習支援の会「学ぶぞ！」を月１回開催した。「食材について学ぶ会」として皆で大豆から豆腐づくりを行った。個別で高卒認定資格の勉強をする人、自身の好きな教科を学ぶ人など、学ぶことそのものに興味を持って参加する若者たちが多く見られた。高校中退者、中卒者が全体の３割を占めるブリュッケの若者たちにとって学びのニーズが強くあることを改めて実感させられる取組みとなっている。

〇アウトリーチ支援

居場所まで来ることが難しい若者を対象にアウトリーチ支援を継続して行っている。各自のニーズに合わせて、福祉事務所や自宅などにおいて訪問型の居場所提供を実現している。アウトリーチ支援から予約居場所へ、開所日の居場所へなど若者それぞれのペースで次のつながりへ展開している。

【居場所開所日数と利用者延べ人数】

	開所日（月水金）			予約制（火木）		アウトリーチ
月	開設日数	利用人数	１日平均	開設日数	利用人数	利用人数
4 月	12 日	214 人	17.8 人	8 日	20 人	4 人
5 月	12 日	210 人	17.5 人	8 日	30 人	4 人
6 月	13 日	206 人	15.8 人	8 日	39 人	7 人
7 月	12 日	201 人	17.9 人	10 日	47 人	8 人
8 月	12 日	215 人	17.9 人	10 日	47 人	8 人
9 月	12 日	176 人	14.7 人	8 日	37 人	7 人

10 月	12 日	189 人	15.8 人	9 日	41 人	6 人
11 月	12 日	238 人	19.8 人	8 日	42 人	8 人
12 月	12 日	202 人	16.8 人	8 日	49 人	5 人
1 月	11 日	181 人	16.5 人	7 日	33 人	6 人
2 月	10 日	151 人	15.1 人	9 日	44 人	4 人
3 月	12 日	179 人	14.9 人	8 日	37 人	2 人
合計	73 日	2,362 人	16.6 人	51 日	460 人	65 人

【アウトリーチ先】

アウトリーチ先	対象者数（重複）	実施回数（延べ）
福祉事務所	6 名	24 回
自宅	6 名	22 回
その他	8 名	19 回
合計	16 名	65 回

① 就労・自立支援

今年度も就労体験えんくる協力隊に参加する若者は増加し、就労体験を経て一般就労へチャレンジしたケースは 17 件、就労による生活保護廃止となったケースは 5 件となった。えんくる協力隊への参加をステップとして次の一歩へ踏み出していく若者たちが増えている。しかし、いずれも非正規雇用であり、安定した就労自立へのハードルは未だ高い状態にある。今年度より法人として開始した「はたらくを探そうプロジェクト」への参加を通して、就労体験の場を法人内から外へと広げ、新たな自立の形を若者たちとともに探していきたい。

【就労体験（えんくる協力隊）参加状況（延べ）】

パントリーサポート	食堂サポート	配送サポート	こども喫茶	合計
136 名	51 名	34 名	20 人	241 名

※パントリーサポート：清掃、PC 入力、在庫チェックなど
食堂サポート：調理補助、盛りつけなど
配送サポート：積荷、配送補助など
こども喫茶：こども見守り、遊びのサポート

【就労に向けた活動参加者数（重複）】

就労体験	職場見学	実習	その他	合計
22 名	2 名	2 名	1 人	27 人

【2023 年度新規就労者】

正規雇用	契約社員	アルバイト	その他	合計
0 名	1 名	12 名	4 名	17 名

【2023 年度離職件数】

正規雇用	契約社員	アルバイト	その他	合計
0 名	0 名	3 名	4 名	7 名

② 地域連携「よろずや」

昨年度、発足した若者たち有志のボランティアサークル「ブリュッケよろずや」が今年度も積極的に活動。中原区役所をはじめ、商店街、近隣事業所など若者たちと地域の人々とのつながりが広がった。

○「よろずや」年間活動

・5～6 月：「よろずや」のチラシ・名刺作成、地域住民へのチラシ配り
・7 月：商店街の飾り付け、中原区交通安全チラシ配り
・11 月：中原区主催の健康福祉祭りの設営（有償ボランティアとして活動）
・12 月：近隣の幼稚園の装飾作り
・1～3 月：近隣の学童保育でのドッチボール練習の手伝い

＜「工房たまりば」＞

本年度は、マスクやハンカチなどの藍染め製品の製作、販売を行った。コロナ禍で工房製品の販売の機会にしていたイベントがほとんど中止になったため、例年より製作数、販売数はかなり減ったが、製作時はフリースペースえんの保護者同士の交流の場となっていた。

(4)保護者・教育関係者・学生・市民の学習と交流の機会及び情報の提供・発信活動

＜広報・啓発活動＞

①通信の発行

・内容：毎月のカレンダー、活動報告、お知らせ等を掲載した定期情報紙『楽えんだより かわら版』(毎月)と『たまりば通信』(年４回) や、一年間の活動の様子や会員の寄稿を掲載した冊子『楽えんだよりＤＸ』（年１回）を制作、発行した。

夢パーク利用者向けには、共同運営事業体として、『夢パークつうしん』を隔月で発行。

②ホームページ・Facebook の開設と運営

・内容：たまりばHP をリニューアルし、活動の予定や報告などを公開し、たまりば会員だけではなく一般の人への広報の場とした。また、フェイスブック等SNS で、日常の様子を広く伝えた。

たまりばHP　https://www.tamariba.org/
たまりばFB　https://www.facebook.com/tamaribaNPO/
えんめしグラム（インスタグラム）　https://www.instagram.com/enmeshigram/
ブリュッケブログ　http://bruckeblog.livedoor.blog/
えんくるHP　https://www.encru-tamariba.org/
えんくるFB　https://www.facebook.com/encru.tamariba/
えんくるインスタグラム　https://www.instagram.com/encru.tamariba/
えんくる公式LINE 等
＊このほか共同運営事業体として、夢パークのHP・インスタグラムの運営

③フリースペース活動説明会

・内容：不登校・ひきこもりに関する理解を促進し、「フリースペースえん」や「川崎市子ども夢パーク」の活動をより身近に感じ、知ってもらうために「フリースペースって、どんなとこ？」を開催した。
・日時：毎偶数月
・対象者：不登校児童・生徒の保護者、ひきこもりの当事者、支援機関、学校関係者、研究者、学生等

④講演活動・スタッフ派遣および視察・見学等の受け入れ

・不登校・ひきこもりはもとより、子どもや若者たちの学校外での多様な生き方や学び方への理解を深めるために、また居場所のあり方、子どもの権利、遊び、子育てなどをテーマに、市民、教育関係者、行政職員、NPO 関係者、学生などを対象に幅広く講演活動を行なった。

・一年間を通して、各地から川崎市子ども夢パーク及びフリースペースえん等への視察・見学を 100 件受け入れた。

・川崎市内の児童相談所（3 カ所）で行なう研修の中で、ふれあい心の友の活動を中心にフリースペースたまりばの各事業について、事業紹介を行なった。

・遊び場づくりなどをしている団体へスタッフ派遣をし、子どもの遊び環境の充実を図った。

・夢パーク合同見学会（一般）の開催

⑤講演会の開催

○「いのちと人権を考える包括的性教育のイベント」＜子どもの権利の日事業＞

・内容：いのちはどうやって産まれてくるのかという話から、男女の身体の機能、プライベートパーツについて、困った時にどうしたらいいか、いのちと人権について考えるイベントを開催した。

・講師：野口としの氏（助産師）

・日時：2023 年 12 月 1 日

・会場：フリースペースえん

・参加人数：40 名

＜各種会議やネットワークへの参画・連携＞

⑥国・東京都・神奈川県他の施策にかかわる協力・連携

・全国自治体シンポジウムにて分科会を担当

・法務省保護観察官・家裁調査官研修講師を務めた。

・文部科学省初等中等教育局局長以下課長係長の視察研修の受け入れを行った。

・地方議会総合研究所主催の一都五県の議員を対象としたオンラインセミナーの講師を務めた

・神奈川県青少年問題協議会委員として参加（事務局：神奈川県・福祉子どもみらい局みらい部青少年課）

・神奈川県学校・フリースクール連携協議会企画委員を務めた。

・国立市のスクールソーシャルワーカーのスーパーバイザーを務めた。

⑦川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加

・川崎市ひきこもり支援ネットワーク会議委員長を務めた。

・川崎市不登校対策連絡会議委員

・かわさき子どもの権利の日事業部会（事務局：川崎市こども未来局）

・川崎市社会教育委員会議青少年教育施設専門部会（事務局：川崎市こども未来局）

・高津区地域教育会議（所管：川崎市教育委員会）

・高津区子ども・子育てネットワーク会議（事務局：高津区地域みまもり支援センター）委員長

・川崎市子ども会議（所管：川崎市教育委員会）との連携・協力

・高津区防災ネットワーク会議（事務局：高津区役所危機管理担当）

・高津区生涯学習推進会議（所管：高津区まちづくり推進部生涯学習支援課）

⑧子どものセーフティーネット構築における関係機関との協働・連携

・高津区要保護児童対策地域協議会（事務局：川崎市こども未来局）へ参加

・川崎市不登校対策連携連絡会議（事務局：川崎市総合教育センター）へ参加

・神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（事務局：神奈川県教育委員会）へ参加（企画委員）

・川崎市発達障害者支援地域連絡調整会議（事務局：川崎市健康福祉局）へ参加
・高津区橘地区社会福祉協議会青少年部会委員として参加
・「高津区ボランティア・当事者連絡会」へ参加

⑨民間団体・市民との連携

今年度は、次の民間団体等と連携を行った。

・子どもの声を聴く無料電話相談「かわさきチャイルドライン」と連携協力
・「日本冒険遊び場づくり協会」と連携
・「フードバンクかながわ」「かわさき子ども食堂ネットワーク」と連携
・かわさきかえるプロジェクト（天ぷら油等の廃油を回収・再利用）と協力
・「かわさき子どもの権利フォーラム」と連携。代表を務める
・神奈川子ども未来ファンドとの連携により、いじめ撲滅を目指した「ピンクシャツデー」を開催した。また、常任理事を務めた
・かながわ生活困窮者支援ネットワークと連携
・水曜パトロールの会（ホームレス支援）と連携
・ちいくれん（地域で子育てを考えよう連絡会）と連携
・かわさき不登校・ひきこもり親の会ネットワークに参加
・子どもの権利条約ネットワークに参加。

＜研修・実習等の受け入れ＞

フリースペースえん及び川崎市子ども夢パークにおいてボランティアや職員、学生等の体験研修・実習を受け入れた。(慶應義塾大学、明治学院大学、学習院大学、國學院大學、青山学院大学、東京農業大学、恵泉女学園大学、清泉女子大学、秋田公立美術大学、駒澤大学、聖心女子大学、慈恵医科大学、鎌倉女子大学、聖徳大学、東海大学、ゆたかカレッジ、早稲田大学、神奈川大学社会教育実習、白梅学園大学、横浜桐蔭大学サービスラーニング実習、日本女子大学、日本女子大学大学院、鎌倉市教育委員会派遣研修など)

＜かながわ生活困窮者自立支援ネットワークへの参画　＞

G-3）かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（幹事団体及び川崎地域事務局）

「かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク（任意団体：かなこんネット）」の活動に、幹事団体として 2023 年度も年間を通して活動を行った。ネットワーク会議と学習会、社会資源の広域的開拓(かながわ生活応援サイトの運営等) は、神奈川県生活援護課から、かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク(以下「かなこん ネット」)への委託事業であるとともに、協働協定書を締結しての協働事業として実施した。 ネットワーク会議の準備段階においても、県生活援護課と、かなこんネットの幹事団体がオ ンライン会議で打ち合わせを重ね、役割を分担して講師や報告者への依頼や調整を行い、広 報においても民間団体に対しては、かなこんネットから、県内市町村に対しては県生活援護 課から周知を行った。こうした役割分担と連携により、ネットワーク会議や学習会には民間 団体、行政、関係機関が参加し官民の垣根を越えた情報共有や意見交換を行うことが可能 となった。＜詳細は別紙４参照＞

※運営体制：【全体事務局】一般社団法人インクルージョンネットかながわ
【川崎地域事務局】認定 NPO 法人フリースペースたまりば
【県西・県央地域事務局】特定非営利活動法人子どもと生活文化協会

(5)　就労支援及び無料職業紹介事業

川崎若者就労・生活自立支援センター・ブリュッケでは、「就労支援を通じて、企業・地域とつながり～企業・地域と連携して、本人の自立・就労をサポートする」という視点を重視した就労支援及び職業紹介を行なった。

【別紙１】えんくる

〇たまりばフードパントリーの配布数と利用者数

	配布数（個）		配布料（kg）		利用者数（人）		開所
	1か月	1日	1か月	1日	1か月	1日	日数
4月	4,172	261	866	54	221	14	16
5月	2,170	128	424	25	155	9	17
6月	1,579	93	426	25	166	10	17
7月	1,711	101	469	28	191	11	17
8月	1,856	116	377	24	172	11	16
9月	1,858	116	626	39	194	12	16
10月	2,257	141	462	29	210	13	16
11月	1,456	91	349	22	141	9	16
12月	2,108	132	705	44	193	12	16
1月	1,109	74	334	22	140	9	15
2月	2,485	178	538	38	141	10	14
3月	2,721	143	861	45	187	10	19
累計	25,482	1,573	6,437	395	2,111	130	195
月平均	2,317	143	585	36	192	12	18

〇えんくる食堂利用者と利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
こども利用者数	80	80	77	67	60	66	93	87	74	81	71	66

大人利用者数	64	63	66	67	56	55	56	52	64	68	63	56
合計利用者数	144	143	143	134	116	121	149	139	138	149	134	122
実施回数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
平均利用者数	48.0	47.7	47.7	44.7	38.7	40.3	49.7	46.3	46.0	49.7	44.7	40.7

年間実施回数	年間こども利用者	年間大人利用者	年間合計利用者	年間平均利用者
36	902	730	1632	45.33

〇こども☆きっさ

月別集計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施回数	12	13	13	12	12	12	12	11	12	10	10	12
月合計利用者	115	109	93	111	117	139	148	101	97	92	93	89
月平均利用者	8.8	8.4	7.2	9.3	9.8	11.6	12.3	9.2	8.1	9.2	9.3	7.4

年間実施回数	年間合計利用者	月平均利用者	1日平均利用者
141	1,304	108.7	9.2

〇時短・節約料理教室

日時	テーマ	参加人数
6月10日	スパゲッティ活用	10
8月5日	冷凍焼き豚	9
11月11日	簡単魚（銀鱈）活用	10
1月13日	手作りパン教室	13
3月9日	粉もの（チジミ）づくり	8
合計		50

〇チャレンジ・ラボ

	日時	テーマ	対象	参加人数
1	7月10日	ごちゃまぜ対話	中学生以上	6

		「お金のこと」		
2	8月21日	夏休み ①絵付け（ふくろう）	小学生	12
3	8月26日	夏休み ②ネームホルダーづくり	小学生	10
4	9月22日	ソープカービング	中学生以上	9
5	1月26日	わくわくエンジン①	中高生	5
6	2月9日	わくわくエンジン②	中高生	5
			合計	47

〇調査事業「福祉的課題を抱える子どもへの食支援の可能性」

・調査検討委員会　開催

第1回 2023年9月11日（月）えんくる事例の分析および考察、ウェブ調査の目的、項目等検討

第2回 2024年3月11日（月）事例分析とウェブ調査の結果を合わせ考察、提言

【委員】

	氏名	所属・役職
1	新保　美香	明治学院大学教授
2	長谷川　俊雄	白梅学園大学　名誉教授 /認定NPO法人フリースペースたまりば　理事
3	椎野　修平	日本NPOセンター　特別研究員 /認定NPO法人フリースペースたまりば　理事

【神奈川県社会福祉協議会】

	氏名	所属・役職
1	小林　幸子	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 地域福祉部　地域課
2	中島　契恵子	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会 地域福祉部　地域課　ケアラー専門支援員

【認定NPO法人フリースペースたまりば】

	氏名	所属・役職
1	鈴木　晶子	認定NPO法人フリースペースたまりば　理事・事務局次長
2	菊地　真紀子	コミュニティスペースえんくる　事業統括

・ウェブ調査

1)調査の目的：こども食堂、フードパントリー等食支援活動に関する下記の期待や疑問について明らかに

すること。

1. 食支援において子どもの困りごとがキャッチされているのか？
2. 食支援の現場ではどんな困りごとが寄せられているのか？
3. 困りごとが寄せられた際、活動団体・個人側に相談できる人/体制/連携先があるのか？

2)対象者：神奈川県内で食支援（こども食堂、食品配布など）を行っている団体・個人

3)回答方法：インターネットを通じた回答

4)期間：2024年1月18日～2024年2月5日

5)周知方法：神奈川こども食堂・地域食堂ネットワーク、横浜こども食堂ネットワークのメーリングリストを通じた周知、子どもの居場所ポータルサイト「かながわスマイルテーブル」掲載団体へのメールによる依頼、フリースペースたまりばSNSによる周知

6)明らかとなった主な結果

・あらゆる団体/個人が、子ども、保護者、関係者の困りごとをキャッチしている。つまり、食支援の場が困りごとをキャッチしやすい「場」や「機会」になっている。

・子どもの困りごとが一番キャッチされにくく、キャッチするのに大きな要因は「開催頻度」。「専門性よりどれだけ身近か」が重要。

・キャッチされた困りごとは「食べ物がない」「生活費」などのほか、家族やそのケアに関わることも多い。

・多くの団体・個人が連携先を持っており、一番の連携先は社会福祉協議会。一方で、連携の課題も多く寄せられた。

・調査報告会

2024年3月29日（金）18:30-20:00 オンラインにて開催

【別紙2】＜フリースペースえん＞

連続講座

講座名	実施回数	内容
平センとものづくり ～作ってあそぼう～	月1回	平林浩さんとブーメラン、花火、編み機等身の回りにあるものを実際に作り、遊んでみることで物のしくみや科学について学んでいる。
俳優・片岡五郎さんの演劇講座	月1回（下半期）	「西部警察」「水戸黄門」にも何度も出演している俳優の片岡五郎さんと演劇ワークショップ。殺陣の身のこなしや発声のしかたを学んでいる。
ジャンベをたたこう	月1回	西アフリカの太鼓であるジャンベをコンゴ出身のB.B.モフランさんとたたき、楽譜は使わずに体を使って様々なリズムをきざむ。
フォルクローレを演奏しよう	月1回	チャランゴ奏者のTOYO草薙さんとともに、アンデス地方の民族楽器（チャランゴ・ケーナ・サンポーニャなど）をみんなで合わせて演奏をする。
長岡さんのケーナ講座	月1回	ケーナ奏者の長岡竜介さんに、初級者から上級者までそれぞれのニーズにあわせて、南米のたて笛・ケーナの吹き方を教わる。
ジャズダンス	月1回	ジャズダンススタジオ＜アミューズ＞を主宰している西崎小恵子さんとともに、自分達の好きな曲に合わせてジャズダンスを踊る。
ボイストレーニング	月1回	西崎小恵子さんとともに、大きな声で歌ったり、歌がうまくなるためのボイストレーニングを行なったりしている。
アート	月1回	有北いく子さんとともに、絵を描くだけでなく、木のつるや和紙を使った作品や、カード・カレンダーなどを作っている。
イタリアンパスタ講座	月1回	元イタリアンシェフの小林英紀さんといろんなパスタを作る。包丁の持ち方など基本から教えてもらい、料理の楽しさを知る。
歌講座	月1回	川崎を中心に全国で活躍する桜井純恵さんといろんなジャンルの歌をみんなで歌う。
青空美容室	月1回	恵比寿で美容師をしている尾松陽太さんに、髪の毛を切ってもらったり、アレンジをしてもらったりしながら、プロの技に出会う。
ともに生きる	年6回（下半期）	開発教育協会の方々と、自分達とは異なる文化について知り、学び、そして「ともに生きる」ことについて考えるワークショップ。

単発企画（実施・参加したもの）

実施時期	企　画
5月24日	上野に行こう！＜有北さんとアート番外編＞
6月7日	どうぶつと出会おう！
6月18日	どんなもんじゃまつり　in 高津市民館
6月21日	いっしーと動画づくり
7月2日	2022年度　活動報告会
7月23日	夢パおたんじょう日まつり
7月30日～8月4日	八丈島キャンプ（東京都八丈島）
9月9日	フリ・フリ・フェスタ　in 神奈川県立青少年センター
10月8日	雑居まつり　in 世田谷区羽根木公園
9月28日・10月11日	みんなの「好き」をみつけよう

11 月 5 日	こどもゆめ横丁（子ども商店街）
12 月 1 日	みんなで考えよう、いのちと性のこと
12 月 8 日	遠藤さんとクリスマスリースをつくろう
12 月 14 日	大そうじ
12 月 15 日	えんクリスマス会
12 月 22 日	夢パーク　クリスマスイベント
1 月 24 日	3 人アンデス　in 夢パーク
1 月 28 日～1 月 30 日	スキー合宿@木島平スキー場（長野県下高井郡木島平村）
2 月 28 日	ピンクシャツデー
3 月 9 日	たまりばフェスティバル
3 月 14 日	大そうじ
3 月 15 日	春だ！春だ！パーティー

その他の企画

企画	実施回数
おはよう、スタディ！（学習支援）	週２回
きれいにし隊（近隣清掃）	週１回
バースデーパーティー	月１回
畑づくりプロジェクト　石井さん　渡辺さん	通年
着物の着付け、茶道　吉田弘子さん	随時
おやつづくり	随時
藍染め　松田菊代さん	随時
ものづくり（木工、手芸など）　福峯衆宝さん	随時
本整理し隊	随時
東日本大震災のことをみんなで考えよう	毎月 11 日（平日のみ）

【別紙3】＜ブリュッケ＞

活動内容Ⅰ　～みんなdeワークと開所日の取組み

①コミュニケーション・ソーシャルスキルワーク

井戸端会議	やりたいことやプログラムの内容など若者たちが決める月例会議。
それぞれの「名作」を語る	アニメ、漫画、映画、ゲームなど、自分だけの名作を語る。
みんなの音楽	お薦めの音楽をYouTubeの動画とともに紹介する。
ゲーム研究会	デジタル、アナログ様々なゲームをみんなで楽しむ時間。
Bruckeシアター	井戸端会議で決めた映画を鑑賞。感想を語り合う。
サイコロトーク	トークテーマを決めて様々な話題を語り合う。
笑顔の時間	お笑い動画をはじめ、笑顔になれる情報を交換し合う。
写真共有会	若者がスマホで撮った写真を共有。出来事や気持ちを発表する。
三瓶さんの知らない世界	それぞれの好きな世界、得意分野などをプレゼンする。
フリーデー	何もしない日が欲しいという声から実現。それぞれにやりたいことを見つけ、自分のペースで取り組む。
いまさら聞けないあんなことこんなこと	生活の中で分からず困っていることを匿名で相談・共有する会。

②体験のワーク

誕生日会	誕生月の若者が「食べたいケーキ」を選び、みんなで作ってお祝い
スイーツ部	みんなでお菓子作りを体験。
太極拳教室	太極拳歴20年の講師による初心者からの太極拳と気功の体験講座
よかよかお灸カフェ	東洋医学とツボを学びながら自分をケアする方法を教わる。
スポーツデー	体を動かしたいという希望から実現。運動が苦手な人向けに「ゆるスポーツ」も実施。
お写ん歩会	武蔵新城周辺を散歩しながら街並みなどの写真を撮り、地域を知る会。
心理ワークショップ	パーソナルスペースの実験を行った。
価値観ワークショップ	「自分っぽさ」を追求するカードゲームと対話のレクリエーションを実施。
ファッション講座	アパレル勤務経験のある講師から、ファッションの基本について教わり、古着屋で似合う服探しも実施。
手作りワークショップ	ものづくり体験。地域で様々な取り組みをする方等に講師を依頼。 5月：珈琲講座～カフェオレ編～ 6月：フラワーケーキづくり 7月：お菓子屋さんのお菓子作り教室～パウンドケーキ編～ 8月：オリジナルてぬぐい・Tシャツ・バッグづくり 9月：　お菓子屋さんのお菓子作り教室～レアチーズケーキ編～ 1月：オリジナル凧づくり 3月：玉ねぎ染め手ぬぐいづくり
生き方歩き方講座	「色んな人生を知りたい」という声から企画し実現。 8月：株式会社Solar Crew代表 河原勇輝さん 8 月：株式会社障碍者 資格講習事業者つばめ 所長 小田嶋陽子さん 9月：特定非営利活動法人川崎ダルク 理事長 岡崎重人さん

	2月：元イタリアンシェフ・えんの昼食ボランティア 小林英紀さん 3月：株式会社南荘石井事務所 代表取締役 石井秀和さん
外出企画	4月：生田緑地・岡本太郎美術館 5月：カフェ巡り＠武蔵新城 6月：工場見学（味の素川崎工場 or 森永エンゼルミュージアム） 7月：稲田多摩川公園（若者企画） 8月：藤子・F・不二雄ミュージアム（若者企画） 9月：カフェ巡り＠えんくる 10月：バーベキュー&川遊び@府中郷土の森公園 1月：初詣@川崎大師 2月：カフェ巡り＠中目黒（若者企画） 3月：スポッチャ（若者企画）

③イベント参加（地域連携プログラム）

七夕の市	武蔵新城で開催されるフリーマーケットに出店。商店街の飾り付けの手伝いにも参加した。
にぎどん	武蔵新城の商店街のお祭りに出店。売る商品や当日の動きなどすべて若者と考え、当日はたくさんの若者が準備・販売に参加した。
フリフリフェスタ	神奈川県立青少年センター主催のイベントに、会場設営や販売ブースの手伝いに参加した。
雑居祭り	世田谷区にて開催されるお祭りに、フリースペースえんの出店の手伝いとして参加した。
ブリュッケフェス～小さいけど大きい世界～	関係機関、関係者などを招待し、若者たちが考えたプログラムで交流し楽しんでもらうイベントを前年に続き今年も開催した。
クリスマス＆忘年会	準備にも多くの若者が参加し、全員で行事を作りあげた。
たまりばフェスティバル	法人が毎年開催しているたまりばフェスティバルに、若者がバンド出演や創作展示・作品販売などで参加。今年は会場準備から参加する若者も現れた。

活動内容Ⅱ　～ひとり de ワークと予約制居場所の取組み

①ひとり de ワーク

PC「個」ワーク	個ワークスペースを活用した PC 自主練習の時間。インターネット体験、タイピング練習などが人気。
珈琲工房	自家焙煎珈琲を作成。生豆の選別から焙煎まで、自分たちで学びながら実践。カフェ巡りのワークと連動させ、社会活動にもつなげている。
アートの日	イラストや創作など個々に作業をするワーク。グループワークの手作りワークショップやブリュッケフェス、ブリュッケよろずやなどの各種イベント・地域活動と連動させて活動した。
ふらっとタイム	やることを決めずに、なんとなく居場所にいれる時間。

②予約制居場所

折り染めワークショップ	和紙と染料による染め物、折り染めで創作活動をしている作家によるワークショップを実施した。
パソコン教室	タイピング練習やMicrosoft Office、ホームページ制作など、それぞれのニーズに合わせた個別教室を開催。
ミニシアター	自宅アウトリーチで好きなアニメ動画などの鑑賞を継続してきた若者が大きなスクリーンで好きなアニメの映画を見るために予約制居場所でのミニシアターを開催。継続して実施している。
ミニスイーツ部	男性が苦手などの理由で開所日の来所が難しい女性などが参加。本人が選んだレシピをもとに作成。レシピ考案の回と実際に作成する回を交互に開催している場合もある
学ぶぞ（学習支援）	通信制高校の課題や高卒認定の対策をしたい若者、学び直しをしたい若者のための自習室のような環境をつくるために月 1 回開催。
女子会	女性のみの空間で、安心して話をし交流して過ごせる時間として月 1 回実施。
その他（アウトリーチ）	個別ゲーム研究会（オンラインゲーム、ボードゲーム）、個別名作を語る（ポケモン、音楽、アイドル）、読書会、楽器練習、学習支援、プログラミング学習、個別外出企画（初詣、お花見、映画館、買い物など）など
出張居場所（どこでもブリュッケ）	母子生活支援施設ヒルズ末長と連携し、月 1 回出張・実施。

【別紙４】かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク

日時	方法	参加者	内容
１．学習会　「健康で文化的な生活」をすべての人に －高齢者の貧困・孤立問題を解決する方途を考える－			
2023年6月21日（水）15:00～17:00	Zoomによるオンライン開催	63名	ひとり暮らしの高齢者や高齢夫婦など、高齢世帯が増えています。高齢世帯の中には、年金のみの収入で経済的に厳しかったり、働きたいと思っても仕事が見つからなかったり、高齢者という理由で賃貸住宅への入居が困難になったりする方々もいます。病気や要介護状態になればさらに生活は大変になるでしょう。コロナ禍では、仕事を失い困窮する高齢者も多くみられました。 経済的困窮、住まいや就労、家族関係の課題など、高齢者・高齢世帯の困りごとはさまざまですが、親族、近隣住民、地域の支援組織などとの関わりがうまくいかずに、社会的な孤立状態にある世帯が多いことも大きな課題です。 今回の学習会では、高齢者の貧困や社会的孤立を長年研究されてきた明治学院大学名誉教授の河合克義氏を講師に招いて、高齢者の貧困や社会的孤立の実態を、「健康で文化的な生活」が保障されているかという観点からも検討し、高齢者の貧困・孤立問題を解決する方途を考えます。 ◆講師：明治学院大学名誉教授　河合 克義氏 ◆内容： ・講演『「健康で文化的な生活」をすべての人に－高齢者の貧困・孤立問題を解決する方途を考える－』 ・質疑応答、意見交換
2. 第1回ネットワーク会議　「多様な高齢者に寄り添う現場から学ぶ」			
2023年 8月2日（水） 14:00～16:30	対面	56 名	近年、高齢者の格差は広がる一方といわれ、老後資金が潤沢にあり、たくさんの相続資金を残して亡くなる人もいれば、年金だけでは生活できず、老後破綻をする人もいる。生活保護受給者も高齢者世帯が一番多く42.6%（厚生労働省「福祉行政報告例」2011年による）を占めている。しかも、好景気と言われるアベノミクスやオリンピック景気と呼ばれる状況でも、年収 200 万円以下のワーキングプア層は 19.0%、年収 300 万円以下の老後資金を貯めることが難しい層が32.6%（国民生活基礎調査2019年）も存在していることが明らかになっている。しかも、高齢者は経済的な問題以外にも、親族と疎遠になっていると、身元保証人がいないために、入院ができなかったり、住まいの確保が難しくなったりと様々な問題が出てくる。また、労働から引退することで、社会との接点を失い、社会的に孤立してしまうこともある。 今回のネットワーク会議では、様々な困難を抱えた高齢者を現場で支えている高齢者施設の団体、LGBTQの当事者を支えている団体、外国につながる背景を持つ人を支えている団体などから発言してもらい、意見交換を通して参加者と共に考える。 ◆会場：鎌倉市福祉センター Zoomによるオンライン同時開催 ◆報告

			①高齢者支援・介護サービスの現場から ・社会福祉法人きしろ社会事業会 地域包括支援センターきしろ管理者（保健師）　村瀬磨美さん ②LGBTQ と貧困、高齢期における諸課題 ・特定非営利活動法人 SHIP　理事長　星野慎二さん ③外国につながる背景をもつ高齢者の状況 ・社会福祉法人青丘社トラジの会　遠原輝さん
3. 第２回ネットワーク会議　「高齢者の貧困と就労実態」			
2024 年 2 月 13 日（火）13:30～16:00	対面	57 名	今年度の神奈川県・かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク主催のネットワーク会議のテーマは高齢者の貧困です。6 月には「『健康で文化的な生活』をすべての人に―高齢者の貧困・孤立問題を解決する方途を考える」学習会を、8 月には「多様な高齢者に寄り添う現場から学ぶ」を開催し、様々な背景や課題を抱える高齢者の実情を学び、話し合いました。 今年度第 2 回のネットワーク会議では、「高齢者の貧困と就労実態」を取り上げます。 高齢者の格差が広がる中、年金が少なく、家族や親族からの援助も難しく、生活のために就労を続ける高齢者や高齢世帯が増えています。また、高齢者の中には生き方として働くことを選び働き続ける人もいます。また、野宿者の様に何も持たない状況でも社会保障制度に頼らず、自ら作り出した就労や支えあいで生き抜き続ける人もいます。様々な困窮する高齢者の働くとはどのようなものなのか、生き方生き様として高齢者の就労がどうあるべきなのか等について、高齢者の生活や就労に関わる団体からの報告をもとに話し合います。 ◆会場：茅ヶ崎市役所分庁舎６階コミュニティホール （JR 東海道線茅ケ崎駅下車、北口徒歩 7 分） ◆報告： ①NPO 法人湘南ライフサポート・きずな　理事　松本和史さん ②NPO 法人ふれんでぃ　副理事長　皆川智之さん ③労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 神奈川事業本部副本部長　鳴海美和子さん